



わが心のふるさと富士山

10

型染めと文  
香取 俣枝さん  
横割四丁目六一五

赤い車



いつも何げなく見ている富士山。旅行に行  
って帰ってから久しぶりに眺める富士山。富  
士市に住んで二十年余りになる私にとって、  
富士山の存在は日ごと大きなものになってい  
ました。  
見えて当たり前前、でもしばらく見えないと  
何となく落ちつかず、その日のリズムが乱れ  
るのです。眺めていてほっとするそんな富士  
山のスケッチは、なかなかうまくいきません。  
富士山の存在が余りに大きく、だれもが共  
通して持っているイメージがのしかかって苦  
労したのですが、結局身近なところでの、  
日常的な光景の中の富士山を描いてみました。

こちら編集室

ドアをあけて驚いた。何と患者  
さんで待合室はいっぱい。苦し  
うにせき込む子供。頭のとっぺ  
んから足のつま先まで、ぐあいの悪  
さを表現しているおじさまなど。  
私は、ただの花粉症。この時期  
だけの医者通い。ふだん人様から  
褒めてもらえることといったら、  
「頑丈でいいねえ」なのに。ああ、  
それなのに花粉ごときに負けるな  
んて。だけど、この時期だけわか  
る。病む人の、心の痛みが少しだけ。  
体験しなけりゃあ理解できないな  
んて、ちょっと悲しいけれど――。



春の芽吹きが始まるころになると、電話で、  
犬の苦情が寄せられるようになります。「放し  
飼いの犬が、種をまいたばかりの畑を荒らして  
困ります」と。そのほかにも、ふんの始末や鳴  
き声などに苦情がふえています。  
愛犬家の皆さん！犬嫌いの人をこれ以上ふえ  
ないために、ぜひご一考を。

広報ふじは環境にやさしい再生紙を使っています